臨牀透析 ●総目次

第 33 巻

Vol.33 No.1〜No.13

（2017 年 1 月号〜12 月号）

◉特　集

《特集一覧》

1 月号　開かれた透析医療―Integrated Care の具現化
2 月号　CKD 貧血ガイドライン―二度の改訂を巡って
3 月号　透析医療に携わる看護職の人材育成とチーム創り
4 月号　透析患者の薬剤処方―ポリファーマシーを考える〔特大号〕
5 月号　オンライン HDF―展開と課題
6 月号　創造する透析医療―新たな modality への期待と課題〔特大号〕
6 月増刊号　透析患者の侵襲性治療
7 月号　予後改善を目指した透析医療
8 月号　透析医療における情報技術の進歩・展開
9 月号　維持透析患者の喪失感―理解・克服への支援
10 月号　開かれた CKD 看護の模索―意思決定を支援する
11 月号　透析患者向け治療食の最先端
12 月号　透析スタッフにとっての腎移植―直面する臨床的課題

■1 月号（vol.33 no.1）　開かれた透析医療 ―Integrated Care の具現化

1.「統合ケア（Integrated Care）」とは　小松　康宏　7〜14
2. 透析医療におけるリーダーシップ　伊丹　儀友　15〜22
3. 腎臓専門医と透析専門医との連携　斎藤　知栄・山縣　邦弘　23〜29
4. 施設透析と在宅透析―HHD 推進による治療の多様性向上のための取組み　田賀農　恵・白井美千代・丸山　祐子・佐藤　泰崇・原田　孝司・舩越　　哲　31〜38
5. 腎臓移植と透析医療　川口　祐輝・酒井　　謙　39〜44
6. 透析医療と介護―レスパイトケア活用に向けて　桐明あゆみ　45〜51
7. 透析患者の肝炎治療―肝炎患者に対する肝臓専門医との連携　須田　剛生・木村　　恵・伊藤　　淳・坂本　直哉　53〜60
8. 糖尿病透析患者の包括的ケア　川浪　大治・宇都宮一典　61〜67
9. 透析患者の栄養療法―心を癒し，楽しみを与えてくれる「食」を　市川　和子　69〜76
10. ソーシャルワーカーから見た透析医療における連携のあり方　藤田　　譲　77〜83
11. 透析患者のメンタルヘルス　堀川　直史　85〜91
12. 透析患者へのリハビリテーション―運動療法の実際　平松　義博　93〜100

■2 月号（vol.33 no.2）　CKD 貧血ガイドライン ―二度の改訂を巡って

1. 序説：本邦の CKD 貧血ガイドライン　秋葉　　隆　127〜131
2.「CKD 患者の腎性貧血治療ガイドライン」作成への軌跡―四つの重要臨床課題への絞り込み　山本　裕康　133〜141
3. 日本腎臓学会「CKD 診療ガイドライン 2013」との記載の差について　岡田　浩一　143〜149
4. Clinical Question
(1) 腎性貧血治療の開始基準とすべき Hb 値はいくつか？　満生　浩司・平方　秀樹　151〜162
(2) ESA 投与に先行する鉄補充療法は勧められるのか？　神田英一郎　163〜168

2026/11/11 09:22:25

(3) 鉄補充療法の開始基準は何か？上限（投与終了時点）は設定すべきか？　亀井　大悟　169〜174
5. 鉄投与経路―経口投与か，静注か　渡邉　公雄・中山　昌明　175〜181
6. わが国の貧血ガイドラインと欧米のガイドラインの違い　濱野　高行　183〜190

■3月号（vol.33 no.3）

透析医療に携わる看護職の人材育成とチーム創り

［総論Ⅰ］
1. 看護基礎教育の今後の展望　斉藤しのぶ　227〜234
2. 看護における継続教育の方向性　江田　柳子　235〜243
［総論Ⅱ］
1. 慢性腎臓病（CKD）看護における継続教育の意義　内田　明子　245〜252
2. 日本腎不全看護学会の教育の取り組み　大坪みはる・三村　洋美　253〜261
3. 透析看護における人材育成プログラムのあり方　下山　節子　263〜270
［実践報告］
1. 透析現場の新人看護職員をどう育成するか　萩原千鶴子　271〜278
2. 透析現場の中堅看護職員をどう育成するか―クリニカルラダーを活用した中堅看護師育成　宮本　紀子　279〜285
3. 透析現場の中途採用看護職員をどう育成するか　田原　恒　289〜297
4. 透析現場の看護管理者をどう育成するか―中小規模透析専門病院における看護管理者教育の実際　丸山　祐子・舩越　哲　301〜307
［コラム］
1. 医師が看護師の人材育成に望むこと―必要な知識，技術，資質を自ら探り，習得する能力の獲得　小松　康宏　262
2. 栄養士からみた透析看護師への期待―患者さんに向けて語りかけてほしいこと　市川　和子　286〜287
3. 臨床工学技士が看護師の人材育成に望むこと　山下　芳久　288
4. 専門医の「360度評価」について　西　慎一　299〜300

■4月号（vol.33 no.4）

透析患者の薬剤処方―ポリファーマシーを考える〔特大号〕

Editorial
肝代謝型薬剤は腎機能低下症例で安全に使用できるのか？　西　慎一　339〜340
［総　論］
1. ポリファーマシーの問題点―高齢者を中心に　秋下　雅弘　341〜346
2. 透析患者のポリファーマシー対策
(1) 薬剤師の立場から　古久保　拓　347〜353
(2) 医師の立場から　伊藤　恭子・筒井　貴朗・永野　伸郎　355〜362
(3) 看護師の立場から　田中　順也　363〜369
3. ［各論：各疾患の多剤併用療法］―なぜ組み合わせるのか？ どんな危険性があるのか？
(1) 降圧薬・不整脈治療薬の処方　涌井　広道・畝田　一司・田村　功一　371〜378
(2) 血糖降下薬の処方　吉田　宣子・吉田　直史・馬場園哲也　379〜386
(3) 骨ミネラル代謝治療薬の処方　谷口　正智　389〜396
(4) 抗血小板薬・抗凝固薬の処方　藤井　秀毅　397〜402
(5) 消化管疾患治療薬の処方　岩坪　修司・藤元　昭一　403〜408
(6) 睡眠薬・向精神薬の処方　辻川　浩明・鶴屋　和彦　409〜417
(7) 疼痛・瘙痒治療薬の処方　山本　卓　421〜427
(8) 認知症治療薬の処方　花房　規男　429〜437
［コラム］
1. 薬剤性低血糖と透析低血糖　吉田　宣子・馬場園哲也　387〜388
2. 透析患者のサプリメントやトクホの服用　安藤　亮一　418〜419

■5月号（vol.33 no.5）

オンライン HDF ―展開と課題

Editorial
オンライン HDF の特徴と臨床効果　山下　芳久　475〜476
1. 総　論
(1) 本邦のオンライン HDF の現状と課題　友　雅司　477〜481

2026/11/11 09:22:25

(2) 海外のオンライン HDF の現状と課題
伊丹　儀友・常山　一志
柏倉　みほ・山下　直哉
佐藤　裕明　483〜490
2. 本邦のオンライン HDF の基礎
(1) ヘモダイアフィルタの特性
峰島三千男　491〜497
(2) オンライン HDF 装置の性能と管理
小野　信行　499〜506
(3) 清浄化透析液供給システム
楢村　友隆　507〜514
(4) 透析液水質基準　川西　秀樹　515〜524
3. 本邦のオンライン HDF の実際
(1) ヘモダイアフィルタの選択
大澤　貞利　525〜531
(2) 各種合併症における治療条件の設定　櫻井　健治　533〜539
(3) 安全で効果的な施行技術
田岡　正宏　543〜552
(4) 大量濾過オンライン HDF の有用性
土田　健司　553〜558
(5) 間歇補充型 HDF（I-HDF）の有効性
江口　圭・峰島三千男　559〜564
(6) 透析液（補充液）組成における影響
久野　勉・尾竹　薫　565〜572
(7) 清浄化透析液の管理
星野　武俊　573〜578
［コラム］
・AFBF（アセテートフリーバイオフィルトレーション）　久野　勉　540〜541

■6 月号（vol.33 no.6）　創造する透析医療―新たな modality への期待と課題〔特大号〕

1. 新たな modality
(1) わが国におけるオンライン HDF/HF は HD を凌駕するか？―オンライン HDF の臨床的有用性
川西　秀樹　595〜606
(2) 合衆国における短時間頻回在宅血液透析の利点とその普及
小川　智也　607〜614
(3) 週 2 回の通常透析に週 1 回オーバーナイト透析を加えると何が変わるのか？
陣内　彦博・大木　美帆　615〜623
(4) PD＋HD 併用療法の課題は何か？
本多　佑・丸山　之雄　627〜632
(5) 透析患者の運動リハビリはどこまで有効か？ 危険ではないのか？
三浦　美佐・伊藤　修　633〜638
2. 新たな技術（モニタリング）
(1) 血管アクセス穿刺に超音波モニタを必要とする患者は限定できるのか？
下池　英明・平山　遼一
真崎　優樹　639〜645
(2) レーザー血流計の利用によって透析低血圧は未然に回避できるか？
佐藤　隆・黒田　浩樹
田岡　正宏　647〜652
(3) 連続溶質除去量モニタで明らかになること
山本健一郎・峰島三千男　653〜657
3. 新たな技術（透析装置）
(1)「全自動透析装置」は患者に何をもたらすのか？―本当に医療事故・ヒューマンエラーなどの危険は軽減したのか
山家　敏彦　659〜665
(2) 透析での事故防止策：透析事故を減らすには―「ヒューマンエラーを減らす努力」より「事故の起きない装置」の開発を模索すべきでは
塚本　達雄　667〜673
4. 透析療法の新たな視点
(1) 透析患者の HCV 感染は治癒することができる―全例治癒して透析室から HCV を撲滅できる？
菊地　勘　675〜684
(2) さまざまな腎代替療法を受けての所感　古薗　勉　685〜691
(3) 日本の透析産業は海外で勝負できるのか？―医療の立場から
竹澤　真吾・丹下　佳洋　693〜698
［コラム］
1. Intermittent Infusion Hemodiafiltration（I-HDF；間歇補充型血液濾過透析）による透析合併症軽減への期待
亀井　大悟・土谷　健　624〜625
2. 中性化した後発イコデキストリン含有腹膜透析液「ニコペリック腹膜透析液」は安全で有用か？―臨床試験の欠落への危惧
濱田千江子　646

■6 月増刊号（vol.33 no.7）　透析患者の侵襲性治療

Ⅰ. 総　論
1. 腎不全外科の特徴
大平　整爾　741〜748
2. 創傷の治癒―遅延および促進因子
井野　康・清川　兼輔　749〜758

2026/11/11 09:22:25

3. 腎不全患者に対する周術期の出血傾向対策
松井　則明・戸田　孝之　759〜765
4. 周術期における透析患者の管理―消化器手術例に対する血液浄化療法を中心に
室谷　典義・堀　　誠司
三木　陽二・杉原　裕基
白鳥　　享・河野　行儀　766〜772
5. 周術期にある透析患者の栄養管理
廣谷紗千子　773〜783
6. 透析患者に対する周術期麻酔管理（区域麻酔・神経ブロック・全身麻酔）
沼澤　理絵・中尾　康夫　784〜791
7. 周術期透析患者に対する薬物使用の原則―抗菌薬を中心に
宮村　重幸　792〜801
8. 透析患者に対する手術など侵襲性治療の危険度の把握―スコア化は可能か
渕之上昌平　802〜811
Ⅱ. 各　論
1. 胸　　部
(1) 呼吸器疾患（肺癌，肺血栓塞栓症など）
服部　優宏・桑原　博昭
沼澤　理絵・小野寺一彦
久木田和丘・目黒　順一　817〜825
(2) 乳腺（乳癌など）
内藤　明広・岩田　　宏　826〜832
2. 腹　　部
(1) 肝・胆・膵　渕之上昌平　833〜842
(2) 上部消化管
今　　裕史・財津　雅昭
村田　竜平・大渕　圭祐
武田　圭佐　843〜851
(3) 下部消化管
佐藤　正法・久木田和丘
小丹枝裕二・土橋誠一郎
服部　優宏・米川　元樹　852〜859
(4) 腹　　膜
① 被嚢性腹膜硬化症
川西　秀樹　860〜869
② 腹膜炎およびその他の急性腹症
安永　親生・吉松　正憲
原武　譲二　870〜879
(5) 鼠径ヘルニア
土橋誠一郎・久木田和丘
小丹枝裕二・佐藤　正法
服部　優宏・小野寺一彦　880〜887
(6) 腹膜透析用カテーテル挿入術
横山　由就・窪田　　実　888〜894
3. 整形外科領域
(1) 透析アミロイド症　森田　弘之　895〜903
(2) 肢 切 断
花岡　英二・河野　儀行
室谷　典義　904〜913
(3) 股関節疾患ならびに骨折
中村　哲郎・山本　典子
進　　悟史・土屋　邦喜　914〜920
4. 心血管領域
(1) PAD　児玉　章朗・古森　公浩　921〜930
(2) 心 疾 患　熊田　佳孝　931〜938
(3) ペースメーカー治療
北村　倫也　939〜943
5. バスキュラーアクセス
(1) PTA―再狭窄軽減の試み
堀田　祐紀　944〜955
(2) 長期留置カテーテル挿入法
濱之上　哲・宮田　　昭　956〜972
6. 泌尿器科領域
(1) 腎・前立腺・膀胱
板橋　淑裕・相川　　厚　973〜982
(2) 腎 移 植
板橋　淑裕・相川　　厚　983〜988
(3) 常染色体優性多発性嚢胞腎の外科手術と塞栓術
諏訪部達也・早見　典子
山内　真之・乳原　善文　989〜996
7. 眼科領域
長谷川亜里・加賀　達志　997〜1005
8. 耳鼻咽喉科領域
栗田　宣彦・奥野　妙子　1006〜1014
9. 甲状腺・副甲状腺―甲状腺癌，副甲状腺摘出術（PTx）
冨永　芳博・平光　高久
山本　貴之・岡田　　学　1015〜1023
10. 産婦人科領域
橋本　和法　1024〜1030
11. 脳神経外科領域
岡本　右滋　1031〜1040
12. 腎不全患者に対する化学療法
近藤　尚哉・柳田　素子　1041〜1048
［コラム］
・ICU 症候群　大平　整爾　812〜814
・侵襲的治療を受ける患者の不安とケア
田口　留美　1049〜1051

■7 月号（vol.33 no.8）

予後改善を目指した透析医療

1. このような食事指導が予後に良い
吉田　菜穂・立花　　健
高山　政之・小笠原　陽　1065〜1069
2. 貧血の改善はこうすれば生命予後に良い結果をもたらす
山本　裕康　1071〜1077

2026/11/11 09:22:25

3. こうすれば安全・長期に腹膜透析が継続できる
丹野　有道・中山　昌明　1079〜1084
4. 予後改善のため血圧異常にはこう対処する
武田　真一・長田　太助　1085〜1091
5. 心臓死はこのように予防する
常喜　信彦・田中　友里　1093〜1098
6. 良好なバスキュラーアクセスはこのように維持する
久木田和丘・佐藤　正法
土橋誠一郎・服部　優宏
飯田　潤一・米川　元樹　1099〜1104
7. 感染症の克服は確実に生命予後を改善する
原田　孝司・舩越　哲　1105〜1112
8. フレイル，サルコペニアはこのように予防・改善する
加藤　明彦　1113〜1120
9. 睡眠障害の改善は生命予後を改善する
小池　茂文　1121〜1127
10. CKD-MBD への良好な対応が生命予後に良い結果をもたらす
横山啓太郎　1129〜1137
11. 生命予後に影響する ASO/PAD への対策はこうする
花房　規男　1139〜1146
12. このような透析のやり方は生命予後に良い影響をもたらす
甲田　豊　1147〜1154

■8月号（vol.33 no.9）透析医療における情報技術の進歩・展開

Editorial　峰島三千男　1185〜1186
1. 血液透析装置・システムからのデータ活用
(1) 日本透析医学会通信共通プロトコルとこれから期待される通信方式
芝本　隆　1187〜1192
(2) 電子カルテとのリンクの可能性
江刺　志穂・政金　生人　1193〜1198
2. モニタリング
(1) 循環血液量モニタの活用
安藤　勝信　1199〜1204
(2) 患者血流量モニタの活用
庭山　淳　1205〜1212
(3) 透析量（透析排液中溶質濃度）モニタの活用
森實　篤司　1213〜1221
(4) 体液量モニタの活用―透析療法における体液量モニタリングの活用
長尾　尋智・高田　幹彦　1223〜1230
3. 災害時透析患者情報の管理
(1) 個人向け健康医療福祉履歴管理システム
戸田　尚宏・西岡　敬祐
北岡　有喜・柳田　素子
塚本　達雄　1231〜1236
(2) 日本透析医会災害時情報ネットワーク
山川　智之　1237〜1243
4. 透析版ビッグデータの活用
(1) 日本透析医学会統計調査データの戦略的活用
政金　生人・中井　滋　1245〜1249
(2) J-DOPPS
長谷川　毅・逸見　治
大宮　信哉・天笠　允仁
秋澤　忠男　1251〜1257
(3) MBD-5D
駒場　大峰・深川　雅史　1259〜1268
(4) Q コホート研究
鶴屋　和彦・谷口　正智　1269〜1275
［コラム］
・PDOPPS　土田　健司　1258

■9月号（vol.33 no.10）維持透析患者の喪失感
―理解・克服への支援

Editorial　大平　整爾　1305〜1306
1. 透析患者が体験する喪失のさまざまな形
筒井　順子・西村　勝治　1307〜1315
2. 透析患者の喪失体験とグリーフケア
堀川　直史　1317〜1324
3. 在宅緩和ケアを通じてみた患者の喪失感
柴田　岳三　1325〜1330
4. 透析医・移植医が経験する透析患者の喪失感
(1) 透析開始後中期・長期患者
平松　信　1331〜1337
(2) 透析導入後・移植後透析再導入
小口　英世・酒井　謙　1339〜1344
5. 患者たちのインタビューを通じてみた透析患者の喪失体験と再生の物語
市丸喜一郎　1345〜1351
6. 看護師がみる透析患者の喪失感
(1) 透析開始間もなくの患者（透析導入期）
岡山ミサ子・片村　幸代
松井　美幸・山本　享代　1353〜1360
(2) 透析期間中期・長期の患者
中原　宣子　1361〜1367
7. 透析患者の喪失体験が意味するもの―社会生活上の喪失とその回復
藤田　譲　1369〜1374

2026/11/11 09:22:25

8. 心理療法士が捉える透析患者の喪失感　服巻　豊　1375〜1380

■10月号（vol.33 no.11）開かれたCKD看護の模索―意思決定を支援する

［総　論］
1. 看護における意思決定支援の意義　中村　光江　1417〜1425
2. 透析看護における意思決定支援　髙井　奈美　1427〜1433
［実践報告］
1. 保存期患者に対する意思決定支援の実際
a. CKD外来での療養支援　井本　千秋　1435〜1440
b. 治療選択支援　松木　理浩　1441〜1445
2. 腹膜透析患者に対する意思決定支援の実際―導入・離脱・中断・併用療法選択における支援　齋藤　凡　1447〜1452
3. 血液透析患者に対する意思決定支援の実際
a. 血液透析患者に対する療養支援―精神疾患を有する透析患者の療養生活支援　熊川智恵子　1453〜1457
b. 血液透析患者に対する治療法選択支援　田中　順也　1459〜1463
4. 腎移植に対する意思決定支援の実際
a. 療養支援　城間久美絵・坂本　律子・杉本　美保　1465〜1470
b. 移植コーディネーターによる支援　佐藤　真澄　1471〜1475
5. 高齢透析患者に対する意思決定支援の実際―死の不安を抱く高齢担がん透析患者の「尊厳ある生の終焉」を目標とした看護　大賀　由花　1477〜1482
6. ターミナル期にある透析患者に対する意思決定支援の実際　阿部　利恵　1483〜1490
［コラム］
1. リビング・エンディングノート「わたしの手帖」（患者会が作成）から　中島由希子　1464
2. 事前指示書の課題　原田　孝司　1476
3. CKD治療における意思決定をどう支えるか　大平　整爾　1491

■11月号（vol.33 no.12）透析患者向け治療食の最先端

［総　論］
1. 年代ごとに求められる透析患者の栄養管理のあり方　金澤　良枝・中尾　俊之　1529〜1536
2. 三大栄養素の重要性―消化・吸収・代謝および各種ビタミンの働き　花房　規男　1537〜1546
3. 腸内細菌の重要性
a. 腸内細菌叢を正常に保つための特殊成分　辨野　義己　1547〜1555
b. 慢性腎臓病患者における腸内細菌と栄養　佐藤　稔　1559〜1566
［最新栄養学を透析患者にどのように取り入れるか！ 将来展望］
1. 栄養改善における重要なアミノ酸とは？　椿原　美治　1567〜1575
2. エネルギー源としての糖質の有効な活用法とは？　山根　由弘　1577〜1582
3. エネルギー源としての脂質の特性と有効な活用法とは？　渡邉　愼二　1583〜1589
4. 食物繊維の種類と有用性とは？―便秘対策　唐澤　幸司　1593〜1599
5. 電解質調整食品の開発とその有用性とは？
a. 低カリウム含有量野菜　小川　敦史　1603〜1609
b. 低リン食品　守田　俊介　1611〜1616
6. 特殊食品を用いた献立例　齋藤かしこ　1617〜1625
［コラム］
1. 高齢者向けの栄養ガイドラインの必要性―4つのカテゴリ分類　金澤　良枝・中尾　俊之　1556〜1557
2. 透析患者の食欲増進　長谷川　元・屋嘉比康治　1590〜1591
3. 透析患者におけるマグネシウム・葉酸　坂口　悠介・濱野　高行　1600〜1601

■12月号（vol.33 no.13）透析スタッフにとっての腎移植―直面する臨床的課題

Editorial　西　慎一　1649〜1650
1. 日本の腎移植の現況と今後の展望　湯沢　賢治　1651〜1658
2. 腎移植医と透析医・透析スタッフとの接点―北陸地区での取り組み　横山　仁・松井　佑樹・田中　達朗・宮澤　克人

2026/11/11 09:22:25

下川　雪江・山口裕美子　1659〜1665
3. 移植コーディネーターと透析医・透析スタッフとの接点
秋山　政人　1667〜1672
4. 腎移植前後の患者管理
(1) 移植待機患者の長期透析管理
上條　祐司　1673〜1679
(2) C 型肝炎ウイルス陽性透析患者の腎移植
西村　憲二　1681〜1687
(3) 糖尿病透析患者の腎移植
松本　直人・長浜　正彦　1689〜1694
(4) 心血管系疾患ハイリスク透析患者の腎移植
藤井　秀毅　1695〜1700
(5) 副甲状腺機能亢進症の管理
濱野　直人・深川　雅史　1701〜1707
(6) 悪性腫瘍の発見と治療
和田　吉生・原田　浩　1709〜1713
(7) 高齢腎不全患者における腎移植
豊田麻理子　1715〜1720
5. どのように腎移植を学ぶべきか
(1) 腎臓内科医の立場から
升谷　耕介　1721〜1727
(2) 看護師・CE の立場から
上野　岳洋　1729〜1734

◉OPINION

1 月号（vol.33 no.1）
2017 年の編集 Concept ― 停滞を克服する ― 開かれた透析医療，創造する透析医療　中山　昌明　5〜6
2 月号（vol.33 no.2）
アメリカ大統領選と医療制度　要　伸也　125〜126
3 月号（vol.33 no.3）
医療の安全性と信頼 ― EPS から考えること　本田　一穂　225〜226
4 月号（vol.33 no.4）
今から 10 年後の透析医療　柴垣　圭吾　337〜338
5 月号（vol.33 no.5）
日本では腎臓内科医の約半数が実践している「インターベンショナルネフロロジー」とは？　池田　雅人　473〜474
6 月号（vol.33 no.6）
「不自然な治療」から「自然な治療」へ　佐藤　博　593〜594
7 月号（vol.33 no.8）
超音波ガイド下バスキュラーアクセス穿刺　加藤　尚彦　1063〜1064
8 月号（vol.33 no.9）
「ボス・キャラ」　久保　仁　1183〜1184
9 月号（vol.33 no.10）
簡単な腹膜透析　樋口千恵子　1303〜1304
10 月号（vol.33 no.11）
AKI，CKD と心腎連関 ― バイオマーカーを臨床に活かすには　向山　政志　1415〜1416
11 月号（vol.33 no.12）
最近，人材育成で思うこと　石田　陽一　1527〜1528
12 月号（vol.33 no.13）
これからの透析医療　岡田　浩一　1647〜1648

◉症例による透析患者の画像診断

1 月号（vol.33 no.1）
末期腎不全に対して左前腕内シャント造設後に左鎖骨下動脈盗血症候群と診断された 1 例
嵯峨崎　誠・菅野　直希
山中修一郎・中田　泰之
内山　威人・山本　泉
松尾　七重・丸山　之雄
大城戸一郎・横尾　隆　108〜112
2 月号（vol.33 no.2）
腎動脈からの後腹膜出血に対し動脈塞栓術が奏効した 1 例
四枝　龍佑・植木　研次
藤田　展宏・岡本　大佑
藤﨑毅一郎・鶴屋　和彦
北園　孝成　199〜203
3 月号（vol.33 no.3）
難治性腹水で発症した腹膜透析歴 1 年 3 カ月の被嚢性腹膜硬化症の 1 例
巽　亮子・角田　隆俊　309〜313
4 月号（vol.33 no.4）
腹部アンギーナを発症した血液透析患者の 1 例
菅野　靖司・角田　隆俊　447〜451
6 月号（vol.33 no.6）
可逆性後頭葉白質脳症（posterior reversible encephalopathy syndrome；PRES）を呈した維持透析患者
齊藤　弥積・山本　泉
横尾　隆　699〜703

2026/11/11 09:22:25

9 月号（vol.33 no.10）
炭酸ランタン関連消化管病変を認めた透析患者の 1 例
岡　英明・八板　弘樹
福満　研人・平島佑太郎
近藤　美佳・相原　成志
上村　太朗・原田　篤実
鶴屋　和彦　1388〜1392

10 月号（vol.33 no.11）
甲状腺嚢胞内に MIBI 集積を認めた副甲状腺機能亢進症の 1 例
巽　亮子・角田　隆俊　1515〜1519

12 月号（vol.33 no.13）
AKI を呈した糖尿病性腎症の 1 例
湯淺美紗子・倉橋　基祥
桑原　郁子・三浦　朗子
古閑　和生・原田　健司
福岡　晃輔・金井　英俊
城嶋　和孝　1735〜1738

◉ケース・スタディ

1 月号（vol.33 no.1）
難治性の浮腫と腎機能障害で搬送された 1 例
野畑　宏信・市原　詩恵
鈴木　啓介・吉野　雅文
鈴木奈津子・西村名帆子
永井　琢人・三浦　直人
坂野　省吾・今井　裕一　101〜107

2 月号（vol.33 no.2）
血圧低下，全身廃用，るい痩を呈した血液透析患者の 1 例
丹羽　弘喜・石淵　絹人
金子　真以・深澤　洋敬
古谷　隆一　191〜197

3 月号（vol.33 no.3）
重度の左心機能低下と改善を繰り返した 1 例
中島　豊・加藤　亜唯
小向　大輔・柴田　真希
宇田　晋　314〜320

4 月号（vol.33 no.4）
原因不明の高カルシウム血症と急性腎不全を呈した 1 例
小倉　彰太・望月　隆弘　453〜459

5 月号（vol.33 no.5）
腹部リンパ節腫脹を伴う不明熱で入院した血液透析患者の 1 例
鈴木　舞・山口　龍生
千葉　茂美・佐藤　壽伸　579〜586

6 月号（vol.33 no.6）
汎血球減少をきたした維持透析患者の 1 例
長島　敦子・知名理絵子
加藤　美帆・権藤　麻子
長岡　由女・岡田　知也
菅野　義彦　710〜716

8 月号（vol.33 no.9）
初診時に末期腎不全を呈し，8 カ月後に血液透析を離脱できた中年女性例
山田　亜純・中屋　来哉
村井　一範・相馬　淳　1283〜1290

9 月号（vol.33 no.10）
1 カ月間に及ぶ血液透析を要した急性腎障害の小児例
三浦健一郎・金子　直人
服部　元史　1381〜1387

10 月号（vol.33 no.11）
二次生体腎移植術後に腹部膨満感と発熱を認めた 1 例
川口　祐輝・板橋　淑裕
相川　厚　1507〜1513

11 月号（vol.33 no.12）
視力低下を契機に腎機能障害を認めた 1 例
杉山　浩一・伊藤　真弓
野畑　宏信・吉野　雅文
坂野　章吾・伊藤　恭彦　1627〜1634

12 月号（vol.33 no.13）
CT にて両側腎腫大を指摘された慢性腎臓病患者の 1 例
尾崎　太郎・祖父江　理
下野　愛子・國正　靖
西岡　里香・大西　啓右
中村　英祐・藤田　拓朗
守時　政宏・西島　陽子
串田　吉生・南野　哲男　1739〜1746

◉注目すべきトピックス

3 月号（vol.33 no.3）
部分肝切除で生じる低 P 血症から見えてきた「未知のフォスファトニン」
鈴木　正司　325〜328

4 月号（vol.33 no.4）
なぜ今 incremental hemodialysis か？
伊丹　儀友　442〜445

2026/11/11 09:22:25

6 月号（vol.33 no.6）
口腔内の健康状態は血液透析患者の生命予後に関連する―オーラルフレイル対策の重要性
加藤　明彦　706〜709

◉腎不全とともに生きる患者および家族へのナラティブ・アプローチ

2 月号（vol.33 no.2）
15. コンプライアンス不良と言われた患者の語り
吉村季実子　212〜216
4 月号（vol.33 no.4）
16. グループホームにおける透析中止患者の看取りケア――介護士との連携を家族の言葉から振り返る
松本　貴子・兼岡　秀俊　461〜465
6 月号（vol.33 no.6）
17. 最期まで「生きたい」と治療を続けた腹膜透析患者のエンド・オブ・ライフ
中野　敦子・三木　真澄
林　秀樹・橋本　寛文　717〜721
7 月号（vol.33 no.8）
18. 穿刺トラブルにより透析拒否を示す患者への関わり
内村由美子　1155〜1158
8 月号（vol.33 no.9）
19. 透析ライフ 20 年余りの患者・家族の語り――QOL 向上への腎代替療法再選択の関わり
数藤　康代　1277〜1281

◉話題・論点／話題

1 月号（vol.33 no.1）
新しい腹膜透析液―重炭酸・乳酸混合中性透析液の臨床的意義
中山　昌明　113〜115
2 月号（vol.33 no.2）
透析患者の血管石灰化予防に対するビタミン K 補充の可能性
花房　規男　206〜210
3 月号（vol.33 no.3）
人生最終段階における医療への患者の希望表明―望ましい命の終焉を迎えるために
大平　整爾　321〜323
4 月号（vol.33 no.4）
C 型肝炎と透析・腎移植医療
西　慎一　439〜441
6 月号（vol.33 no.6）
イオン輸送体を target とする新たな作用機序をもつリン低下薬の登場
秋葉　隆　704〜705

◉透析療法に関する素朴な疑問

1 月号（vol.33 no.1）
Question 9
ドライウエイト（DW）設定のための胸部 X 線撮影は透析前・後のいずれかなど，推奨されるタイミングはありますか？ また，撮影時の吸気条件で違いが出るでしょうか？
満生　浩司　116〜117
2 月号（vol.33 no.2）
Question 10
透析液の組成はどのようにして決められたのですか？
峰島三千男　204〜205

◉研究・報告

8 月号（vol.33 no.9）
〔症例報告〕維持血液透析患者の足爪白癬に対するルリコナゾールの有効性が示唆された一例
成山　真一・小坂　文子
神頭　真理・上岡　美保
野口　哲也・尾藤　良子
澁谷　浩司・濱松　初美
杉木　雅彦・政近　智子
粕本　博臣・澁谷　浩二　1291〜1295
11 月号（vol.33 no.12）
〔症例報告〕240 μg/week の高用量ダルベポエチンアルファ静脈注射により貧血改善を認めた骨髄異形成症候群合併維持透析患者の 1 例
橋本　整司・山本　理恵
眞岡　知央・中垣　祐
渡邊加奈子・横山　あい

2026/11/11 09:22:25

吉田　美穂・西尾　充史
小池　隆夫　1635〜1638

◉研究会抄録

7 月号（vol.33 no.8）
第 27 回 日本サイコネフロロジー研究会「康心は健体に勝る ― 心をやすらかにして，腎臓病に向き合おう」
相川　厚・阿部　秀司・花見　紗代
平良　隆保・野畑真由美・前田　国見
石川美紗子・米田　龍生・田代里枝子
大平　整爾・髙田　幸江・桂川　修一
小川　智也・伊丹　儀友　1159〜1176

9 月号（vol.33 no.10）
第 19 回 在宅血液透析研究会
テーマ：“The Time Has Come”
〜時機到来〜
前田　憲志・政金　生人・髙橋　計行
森石みさき・伊東　稔・柴田　祐平
柴田　勉・三浦　元宏・三浦美枝子
古薗　勉・若井　陽希・奥積　一彦
斎尾　英俊・阿部　聖也・西原眞由美
杉本　謄寿・星子　清貴　1393〜1407

◉追　悼

10 月号（vol.33 no.11）
追悼　大平整爾先生
川口　良人・浅野　泰・宇田　有希
鈴木　正司・原田　孝司・秋葉　隆
伊丹　儀友・小松　康宏・西　慎一
中山　昌明・加藤　明彦・花房　規男
下山　節子・水附　裕子・佐藤　久光
中原　宣子・三村　洋美・市川　和子
齋藤かしこ・峰島三千男・山下　芳久
1492〜1505

本誌の本年 1 年間の編集委員，編集協力者は以下のとおりです．また，本誌の刊行にあたりご協力いただきました皆様に深く感謝申しあげます．〔(株) 日本メディカルセンター〕

■編集委員
鈴木　正司　原田　孝司　秋葉　隆　伊丹　儀友　中山　昌明　加藤　明彦
小松　康宏　西　慎一　花房　規男　下山　節子　水附　裕子　佐藤　久光
中原　宣子　市川　和子　齋藤かしこ　峰島三千男　山下　芳久
大平　整爾 (故人)

■編集顧問
川口　良人　浅野　泰　宇田　有希

■編集協力者
斎藤　明　久保　和雄　塚本　雄介　飯髙喜久雄　松井　則明　篠田　俊雄
青池　郁夫　三瀬　直文　衣笠えり子　渡邊　有三　櫻井　浩治　上田　峻弘
川西　秀樹　星井　桜子　平方　秀樹　頼岡　德在　小野山　薫　宮崎　滋
金　昌雄　芝本　隆　藤井　穂波　竹澤　真吾　星野　敏久　岡本　裕美
（敬称略）

■創刊以来ご尽力いただいた歴代編集委員
前田　貞亮 (故人)　黒川　清　佐藤喜一郎　中川成之輔 (故人)　酒井　糾
平澤　由平* (故人)　春木　繁一* (故人)　落合　福江　吉岡　典　足立　悦子
臼井　昭子　安西志保子　川崎　忠行　赤間　立枝　（敬称略，*：特別編集委員）

2026/11/11 09:22:25